

春のイベントへ おでかけください

第19回 春の優しい日射しに誘われて「まちなか エコ市場」にいらっしやいませんか!

まちなか

エコ市場 3月26日 (土)

- ・環境関連の展示やエコ教室で環境のことも楽しく勉強できます。まず、知ることから始まります。
- ・ステージは、今まで以上にパワーアップしています。
多彩な出演者にご期待ください!
- ・エコ市場名物の「軽トラ市」は、里山からフレッシュな野菜や花をお届けします。
- ・アーケード内には、美味しいものや雑貨販売などのおなじみの出店ブースのほか、フリマコーナーも今回はお店がずいぶん増え、満足いただけると思います。
～みなさまのお越しを、心よりお待ちしております～



☆エコ市場に関する情報は、随時、ポータルサイト「うべくる」のブログにも掲載していきますのでぜひそちらもご覧ください!

まちなか銀天おそうじ隊募集!

まちなかおそうじ隊は月に一度、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードや塩田川、中川などを掃除しています。メンバーはその日集まってくださった方々。楽しく「まち」を、きれいにしませんか?

3月27日(日) 15:00~

まちなか環境学習館前に集合です。

(道具は用意しています)

おそうじ隊参加者には環境地域通貨エコハ2枚進呈! あとの茶話会で職員と会話をしませんか。



第19回 環境サロン

『インドネシアの森林火災とCO₂削減に係るCDMの可能性』

山本浩一さん(山口大学理工学研究科准教授)

と き: 3月14日(月) 18:00~

と ころ: まちなか環境学習館

参加料: 200円(100エコハ進呈)

熱帯泥炭湿地の開発と海岸浸食や森林火災による大量のCO₂排出の関係について、スマトラやカリマンタンで現地調査されている結果を紹介していただき、森林火災の抑制が、石炭火力発電所からのCO₂排出の軽減策として認められるための問題点について考えます。

第20回 環境サロン

平成27年度最終報告および特別講演

と き: 3月19日(土) 13:30~

と ころ: 宇部市総合福祉会館 4階大ホール

参加料: 資料代として200円(100エコハ進呈)

◇プログラム◇

13:30~ 報告会

うべ環境コミュニティー会員による今年度のサロン(全19回)の要旨紹介

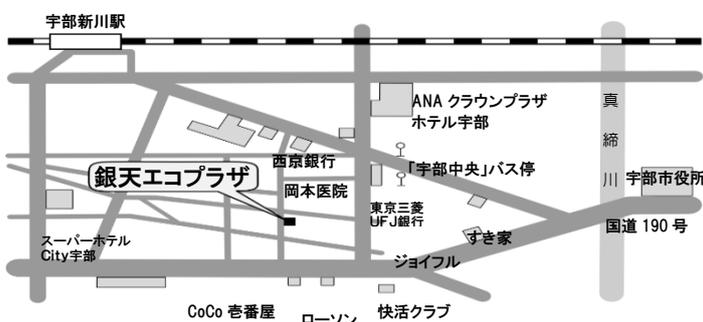
15:00~ 特別講演『子どもたちの未来』

児玉 典彦さん

(下関市立川中中学校校長)

経済成長による行きすぎた消費、格差の拡大によるこどもの貧困、共同体の崩壊など、困難な時代です。子どもたちが未来に生きていく力を育む為に、大人が何をなすべきか、コミュニティスクールを通しての地域の支援や、子ども達に利他心を教えることの大切さについてお話し頂きます。

H26年度サロン
報告会の様子



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110

E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

環境活動団体紹介コーナー

～環境サポートメイツの会～

『環境サポートメイツの会』を再度取り上げて頂き、ありがとうございます。この会は平成17年に宇部市の要請を受けて発足しました。現在会員は12名です。

平成15年に完成した宇部市のごみ処理施設は西日本有数の最新鋭の焼却施設でした。当初は年間の視察見学が100件以上、4000人を超えていました。市の担当者が終日、施設案内に時間を費やすほどだったそうです。

私たちの活動の場は、宇部市環境保全センターで、「ごみ処理施設」と「リサイクルプラザ」のガイドをしています。見学者数によって2～5人で担当します。年間2,000人が見学に来られます。特に小学4年生は市内の全校から来られるので責任は大きいです。その他環衛連、市外からの視察、最近では幼稚園児などにガイドしたり、海外からの研修員に説明をすることもあります。



ごみクレーンに歓声をあげる子ども達



宇部市のごみ問題、リサイクルについての質疑応答の時間も設けています。そのためにもニーズに対応できる研修を重ねています。

『3Rの必要性』と「混ぜればごみ、分ければ資源」「生ごみのもうひと絞り」を理解して頂き、少しでも宇部市のごみ問題解決のお手伝いができるよう活動しています。

環境サポートメイツの会 山根好子

〈施設ガイド申込先〉

宇部市リサイクルプラザ 電話 0836-31-5584



環境歳時記

3月24日

日本国際博覧会開会式が行われた(2005年)

1964年(昭和39年)の東京オリンピック、そして1970年(昭和45年)の大阪で開催された日本万国博覧会、いづれも、戦後復興、経済の高度成長を背景に国を挙げて開催された国家プロジェクトであった。そんな東京都と大阪に挟まれた名古屋、発展する自動車産業の中心地であり、その地域の政財界で東京大阪に伍して何か大きなイベントをといたった思いがあったかどうかは不明であるが、動きはあった。

1969年(昭和44年)には当時の桑原愛知県知事は「地域開発博」を提唱し、その後1980年(昭和55年)開催目標に「日本21世紀博覧会」を仮称としてスタートした。しかしその後知事の引退とともに話は途絶えた。また次の仲谷愛知県知事は1988年(昭和63年)開催を目標とした「名古屋オリンピック」を提唱し、招致活動を開始した。しかし、石油ショック後の財政悪化なども加わり活動は難航した。そして1981年(昭和56年)名古屋オリンピックは対立候補の韓国ソウルに敗れ、夢と消えた。

その後、再び1988年(昭和63年)、大阪での万博と同規模の博覧会を愛知県で開催する構想が愛知県知事、名古屋市長、中部経済界代表の3者会談で打ちあげられた。

その当初の計画では県が保有する県有地のある海上(かいしょ)地区を中心に広大な山野を切り開き会場とする計画であったが、海上地区(瀬戸会場)にオオタカの営巣が発見され、生態系を尊重する市民団体などの反対運動が活発となった。またBIE(博覧会国際事務局)から「万博の跡地利用計画は環境破壊」であるとの厳しい指摘を受けて、メイン会場を愛知青少年公園(長久手会場)に変更し、万博のテーマとしてより環境問題を前面に打ち出す事となった。その後、市民やNGO、NPOなどが加わり、コンパクトで省資源的な環境配慮型の会場構成となった。

また、サブテーマとして1.宇宙、生命と情報 2.人生のわざと知恵 3.循環型社会 を上げた。

そして2005年(平成17年)3月24日長久手会場のEXPOドームで開会式が行われた。

開催期間：3月25日～9月25日
(6ヶ月、185日間)

来場者数：2,204万9,544人
(目標：1,500万人)

結果として誘致から登録、開催にかけて「環境への配慮」をより鮮明にし、環境保全に重点を置いた会場づくり、廃棄物のリデュース、リユース、リサイクル(3R)の努力、産学官民の連携、特に市民参加型の運営展示を推進、環境配慮と経済性(採算性)の両立に努力したなど、また開催期間中大きな事故が無かったことなどにより、BIEは2005年6月に開催された総会で「祝意と賛辞の宣言」を議決した。後日、BIEのロセルタレス事務局長は日本政府関係者に「この博覧会は最悪の状況で始まり、最高の結果になった」と語ったそうです。

ただ残念なことにそんなに大切に守られてきた海上の森の隣接地に許可なく樹木を伐採し、広大な敷地に太陽光パネルを設置していたことがごく最近発覚した。海上の森野鳥の会副代表の森島達男氏は「そこまでして保全した森の隣でこの開発はひどい」と怒っている。

(館長 西村 誠)

宇部市環境学習ポータルサイト「うべっくる」

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

Facebookやtwitterへもこちらからアクセスできます。



うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com>